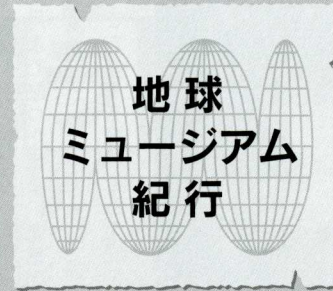


中国広西の 「生態博物館」

塚田 誠之 (つかだ しげゆき)
本館先端人類科学研究部



生態博物館／中国

しかし、反面、問題点をも抱えている。たとえば、南丹県では多くの観光客が訪問するには交通が不便であり、結果、住民が出稼ぎに行かねば生計を維持することができないこと、また貴州の鎮山のように、交通の便はよいが、観光業と過度に結びついて、土産物や「農家楽」(農民レストラン)が無秩序に林立して俗化してしまっているところもある。文化を維持しつつ経済発展をめざすことは実際には問題点が多いのである。生態博物館の今後の動向が注目されるところである。

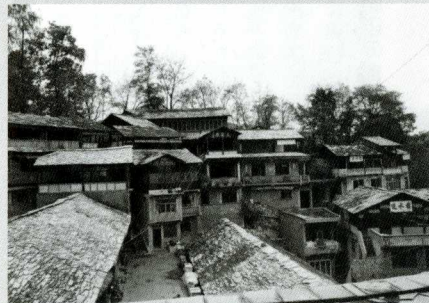
一九九〇年代から、広西や貴州で「生態博物館」が建設されている。もとはフランスで一九七〇年代に提唱されたエコ・ミュージアムを起源とし、それを中国の実情にあうように応用したものであるといわれる。中国のそれは、当該地域の文化や景観を保護するだけでなく、住民の経済生活を改善することが大きな目的である。

村落をそのまま博物館とし村民が文化の保護に参加する試みは一九九〇年代にノルウェー政府の協力をえて貴州で着手された。雲南でもその構想を応用した試みが一九九〇年代末に着手された。広西では貴州の経験を受け継いで、自治区文化庁が、衰退や消滅に直面している民族の伝統文化を保護し発展させ広西を「民族文化財大省」とする構想をたて、多額の投資をし、二〇〇四年に南丹県の白褲瑶(バイクー・ヤオ)生態博物館が竣工した。以降、三江トン族自治県、靖西県に建てられた。

靖西県は人口五六万人のうち九九パーセントがチワン族で、ベトナムに接している。県庁所在地にほど近い旧州が生態博物館とされた。靖西県は「小桂林」と称され



広西靖西県新鎮鎮旧州街の町並み



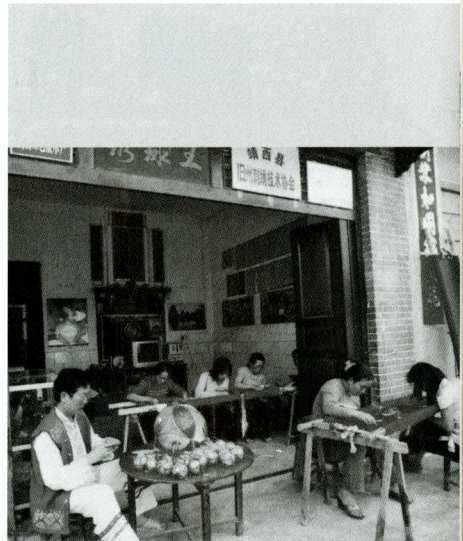
貴陽市近郊の鎮山。景勝地の湖畔につくられた「農家楽」が林立する

雲南省文山州邱北県の景勝地・仙人洞村



るカルスト地形の風光明媚な地で、高床式住居や歌掛けなどチワン族の文化が濃厚に維持されている。操り人形劇や中秋節の灯笼祭りも近年注目されている。民博ではもっか開催の特別展「深奥的中国—少数民族の暮らし」と「工芸」で高床式住居の居住空間を再現してチワン族の暮らしと文化を紹介しているが、そのおもな舞台は靖西県である。旧州は一九世紀初まで県の政治の中心地で、石造りの家屋が並ぶ風情のある町だ。ふるい建物を修復して町並みを整備し、石畳の道を敷設した。町にはチワン族の伝統的な工芸である刺繍をほどこした繡球を製造販売する工房兼商店が並ぶ。木彫の工房や絵画のアトリエなどもある。村の入り口にある展示場ではチワン族の文化が実物とパネルで紹介されている。靖西県は観光スポットが多いこともあって、二〇〇五年八月のオープン後、観光客が増えつつある。

現在、広西ではさらに七カ所の生態博物館建設を進めている。それは、南丹県で道路を整備し飲用水を供給するなど住民に役立ち、貧困から抜け出すのにそれなりの役割を果たしつつある。



旧州で繡球を製造販売する店頭で

貴州省六枝特区梭(スオカー)。「長角」ミャオ族。ウシの角のかたちをした飾りをつけ、この上から付け毛を巻く

